

平成30年土石流調査情報（桜島地域） 第3報

（通算第190号）

- 桜島の噴火による平成29年（1月～12月）の降灰量は、前年同期間と比較して約2.0倍となっています。
- 桜島における土石流は、前年（1月）は0回であり、今年1月は、2回発生しています。

1 桜島の噴火による降灰の状況

平成29年12月1日から平成29年12月31日までの約1ヶ月の桜島18カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、有村川観測所（No.15）で0.14kg/m²でした。また、降灰量の18観測所の1月から12月の合計値は、前年比で約2.0倍となっています。

資料-1 桜島の降灰量図

資料-2 降灰状況

資料-3 平成28年（1月～12月）及び平成29年（1月～12月）の降灰量比較

2 土石流の発生状況

平成30年1月1日～31日の間、桜島の11河川において1月17日に、野尻、有村川でそれぞれ1回ずつ土石流が発生しました。

図-1 桜島の直轄河川位置図（全11河川）

資料-4 平成29年及び平成30年（1月）の土石流発生回数比較

資料-5 各溪流における土石流発生状況（平成29年1月～及び平成30年1月）

資料-6 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

3 土石流災害の危険性

平成28年・29年の桜島における土石流の発生回数は、平成28年は25回、平成29年は17回と爆発・噴火回数が活発な時期に比べ若干少なくなっていますが、平成28年に153回まで減少した噴火・爆発回数は、平成29年には406回と増加し、降灰量も約2倍となっており、本年に入っても少量の雨で土石流が発生する状況は継続しています。

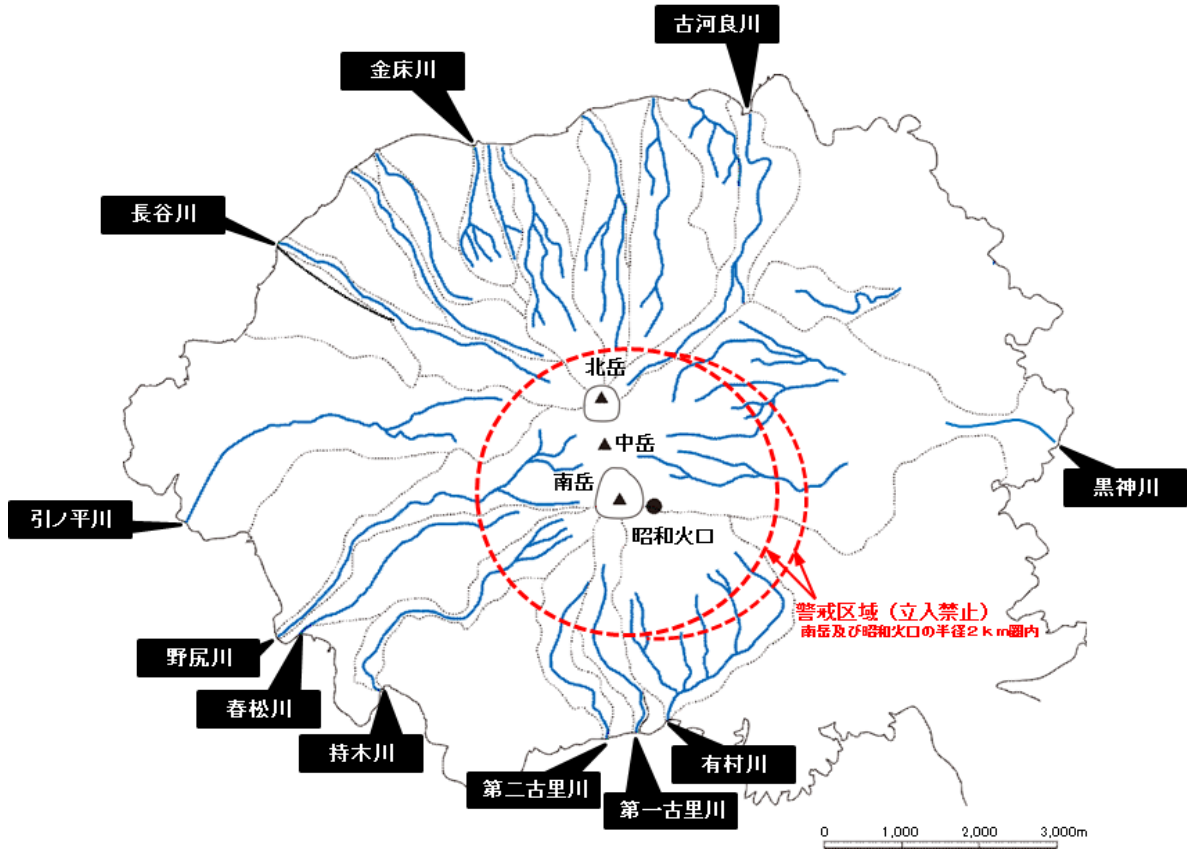
鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので今後も、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

資料-7 年間（暦年）・土石流発生と噴火回数の関係

4 今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第31条第2項に基づく情報の随時提供です。



図－1 桜島の直轄河川位置図（全11河川）